

子どもの自尊感情を育てるために学校でできること 地域でできること

今日のめあて

- D.Liveが意識している子どもへの関わり方を参考に、子どもたちへの関わり方を考える
- 職場で自尊感情を育む取り組みがしたい時に、自分なりの最初の「はじめの1歩」を見つけることができる

自己紹介

得津秀頼（とくつひでより）

大阪教育大学 卒

大阪府の小学校で4年間教師を勤める。学校現場では、一見すると「普通の子」であっても、自信が無い、親の期待に過度に応えようとする、愛情に飢えているなど、「普通の子」の裏にある悩みや問題に向き合ってきた。その経験から、子どもが「愛されている」と実感できることが今の教育現場では重要だと気づく。D.Liveでは大人向けに自尊感情に関する勉強会や普及事業を担当し、「子どもの良い所も悪い所もそのまま受け容られるようになること」を願って学校の先生や子育て中の保護者に向けて講演し続けている。

生徒指導に携わっていると必ず耳にするのが、「予防的生徒指導」とその重要性。学校現場に起きている問題行動・いじめ・不登校などを予防し、温かい学級をつくるキーワードになるのが自尊感情です。

D.Live 子どもアンケート

そう思う

ややそう思う

あまりそう思わない

そう思わない

- 学年と性別を教えてください。
(小学校・中学校・高校) () 年生 性別 (男・女)

人の目を気にして自分のやりたいことができないことはありますか？

(理由:)

--	--	--	--

将来やりたいことはありますか？

(理由:)

--	--	--	--

友達に気軽に頼みごとをできますか？

(理由:)

--	--	--	--

どんなことでも友達に相談できますか？

(理由:)

--	--	--	--

友達は自分のことを理解してくれていると感じますか？

(理由:)

--	--	--	--

お父さんやお母さんは自分のことをよくわかっていていると感じますか？

(理由:)

--	--	--	--

今の自分に満足していますか？

(理由:)

--	--	--	--

自分は何事にもあきらめずに物事に取り組むことができますか？

(理由:)

--	--	--	--

- 自分のことは、どれくらい好きですか？100満点で点数を教えてください。

() 点

- 自分はお家の人からどんな風に思われていると思いますか？

- 自分は友達からどんな風に思われていると思いますか？

- 自分の長所はなんだと思いますか？

D.Live 子どもアンケート

●学年と性別を教えてください。
 (小学校・中学校・高校) () 年生 性別 (男・女)

そう
思う

やや
そう
思う

あ
まり
そう
思
わ
な
い

そ
う
思
わ
な
い

人の目を気にして自分のやりたいことができないことはありますか？

(理由:)

--	--	--	--

将来やりたいことはありますか？

(理由:)

--	--	--	--

友達に気軽に頼みごとをできますか？

(理由:)

--	--	--	--

どんなことでも友達に相談できますか？

(理由:)

--	--	--	--

友達は自分のことを理解してくれていると感じますか？

(理由:)

--	--	--	--

お父さんやお母さんは自分のことをよくわかっていていると感じますか？

(理由:)

--	--	--	--

今の自分に満足していますか？

(理由:)

--	--	--	--

自分は何事にもあきらめずに物事に取り組むことができますか？

(理由:)

--	--	--	--

●自分のことは、どれくらい好きですか？ 100満点で点数を教えてください。

() 点

●自分はお家の人からどんな風に思われていると思いますか？

●自分は友達からどんな風に思われていると思いますか？

●自分の長所はなんだと思いますか？

子どもの自尊感情を伸ばすために TRY部が行なっていること

TRY部カリキュラム紹介 –自尊感情を構成する4つの要素を踏まえて–

私たちが行っているTRY部では、先ほど紹介した自尊感情を構成する4つの要素を満たすようなカリキュラムをつくっています。カリキュラムがどう対応するのかについて、以下にまとめました。

- **包み込まれ感覚**——毎週の生活のふり返りとスタッフの関わり方
- **社交性感覚**——毎週の授業
- **自己効力感**——毎週の授業と生活のふり返り、マイプロジェクト
- **自己受容感覚**——毎週の授業とスタッフの関わり（とはいえ、とっても難しい…）

ナナメの関係にあるスタッフたち

『社会全体で子どもを育て守るためには、親でも教師でもない第三者として子どもとの新しい関係「ナナメの関係」をつくるのが大切である。』（文科省 HPより）

子どもたちにはタテの関係である親や先生には話せないこともあります。ヨコの関係である友達にも言えない悩みもあります。そんなときに必要なのが、ナナメの関係。近所のおっちゃんや地域の人になら、気軽に話せることがあります。

私たちが運営している「TRY部」では、スタッフは子どもたちにとってナナメの関係にあります。悩みや困ったことは、生徒は「ここなら、どんなこと言ってもいいと思えるねん。学校とか親には言われへん」と言っています。

TRY部に通う生徒について

活動を通して出会ったある女の子の話

Aさん（中3女子）は、4人家族で、下に軽い障がいをもった弟がいます。Aさんは、母からどう見られるかを気にしています。テスト前になると「お母さんは子どものとき◎◎点くらいとれたけど」という言葉を言われたりして、プレッシャーに感じているようです。数学が特に苦手です。自分でも目標を立てて、勉強をしますが目標を達成できないときは凹んでいます。また、お家では弟のこともあり、あまり見てもらっていないようです。学校ではクラブにも積極的で、男女分け隔てなくだれとでも仲良しです。

あなたなら、テストを控えて憂鬱な気分にいる彼女になんと声をかけますか？

スタッフが徹底しているルール

■子どもへの関わり方

・指導ではなく、寄り添う。

TRY部は“教える”、“指導する”という場ではありません。大事にするのは、子どもに寄り添うこと。悩みや困っていることを聞いたとき、子どもの気持ちに寄り添い共感すること。そうすることで、子どもは「わかってくれる」という安心感を持つことができます。

・じっくり聞く

子どもにとって大事なのは「自分の話をしっかり聞いてくれる」という信頼感です。話を遮ってアドバイスや意見をやるのではなく、子どもの話しは最後までじっくり聞くという傾聴を心がけています。

・一緒に考える

答えはスタッフではなく、子ども自身が持っています。一方的に答えや最適なやり方を伝えるのではなく、本人にとってなにが一番良い方法なのかを一緒に考えます。

・むやみに褒めない

一般に子どもの事を褒める事が、自尊感情や自己肯定感を育てるのに大切だと言われていますが私たちはむやみに子どもを褒める事はしません。

※不登校（傾向）の生徒と面談するときは「誰が、何に、なぜ困っているのか」を1時間かけて聞くようにしています。

■授業で行うワークショップについて

・毎回ルールを設定する

最近は言語活動だけでなく、アクティブラーニングと呼ばれるような能動的な学習形態が求められます。進んで取り組む生徒もいますが、そうじゃない生徒もいます。どの生徒も話しやすい環境を保証するために活動のルールは毎回設定します。

(例)

- ・最初の5分はアイデアをとにかく出す時間にする
- ・相手の話を最後まで聞く
- ・相手と意見が同じであっても、同じだと自分から言う

・やりっぱなしにしない

活動した後は、かならずふり返りをします。やりっぱなしにすると、楽しかったとか面白くなかったという感想だけになってしまい、それこそ意味が持てないのでふり返りをすることで様々な角度から意味付けを行っていきます。

(例)

- ・活動の中でどんなことが起こったか
- ・めあてに対して自分はどれだけ達成できたか
- ・次、まったく同じ活動をするとしたら何に気をつけるか。それは他でも活かせるか。

これまでTRY部でおこなった関係づくりの活動例

○ペーパータワー

1、3～5人のグループに分けて、グループに紙（なんでもいいです）を20枚ほど渡す。

2、ルールを説明する。

<ルール>

- ・紙を折ったり丸めたりして一番高く積んだチームの勝ち
- ・作戦タイム中は紙にさわってはいけない。話し合いだけでどうするか決める
- ・相手の邪魔をしない。時間ギリギリまで努力する

3、作戦タイム（大体5分くらいです）

4、紙を積むタイム（大体3分くらいです）

5、ふり返り 観点はチームワークや意見を出して決めることについて

○パチパチインパルス

0、グループでも全員でもできます

1、ルールを説明する

<ルール>

- ・手拍子をリレーして、何秒で最後までいけるか競う
- ・先生が時間を計る

2、練習タイム

3、目標タイム決める

4、本番

5、さらにタイムを縮めるために何ができるか作戦タイム

6、もう一度本番

（以降、好きなところで終わってください。強度をあげるために目をつむらせるのもアリです）

7、ふり返り 観点はチームワークや意見を出して決めることについて

○足し算じゃんけん / 掛け算じゃんけん

<ルール>

・グー、チョキ、パーではなく、出すのは1～5

・じゃんけんぽんで出して、相手と自分の足した数（あるいはかけた数）を先に言った方が勝ち

三勝した人から先生の右に並ぶようにさせたり、いつもと違うグループ分けなどに使えます。

職場に応じた講演・ワークショップいたします

～講演テーマ～

学校の先生向け講演テーマは、大きく下記の 4 種類。もちろん、それ以外にもご要望に応じた内容でお話させていただきます。話をただ聞くだけでなく、参加者が活動・体験するようなワークをメインにした勉強会をおこなうこともできます。

- 学校だからできる自尊感情の育てかた
- ”ただ褒めるだけでいいのか”と思い始めたあなたへ
- 子どもの自信を高める方法について
- 「子どもの自信白書」から読み解く子どもの自尊感情の実態

【D.Live 主な講演実績】 滋賀教育の日フォーラム、東近江市人権研修、滋賀大学、ロータリークラブ（草津、東近江）、立命館大学、瀬田北中学校、ほか多数

【講師プロフィール】

田中洋輔（代表理事）：学生時代は、テレビ制作、政治家インターン、カフェ運営などをおこない、2009年にD.Liveを設立。小学校から大学まで各地で講演・授業を実施。

得津秀頼（副理事）：自分に自信が持てない、自分を好きになれない、そんな人が自分を好きになり前向きにチャレンジできる社会を創るためにD.Liveを立ち上げた。主に自尊感情に関する事業・講演を担当。

お問い合わせ **info@dlive.jp** **http://www.dlive.jp/**